



南中学校だより

令和 7 年 7 月 1 日（火）
東松山市立南中学校長
栗田 秀人

【学校教育目標】心を磨き 本気で学び たくましく

第 4 号

【目指す学校像】生徒一人一人が生き生きと輝き存分に躍動するとともに、家庭・地域と信頼の絆で結ばれる学校

令和 7 年度 体育祭開催

令和 7 年度の体育祭が 6 月 2 日（月）に開催されました。予定では 5 月 30 日（金）の予定でしたが、生憎の雨天順延となりました。それでも、体育祭当日は晴天に恵まれ、気温・湿度とも適当で「体育祭日より」と言える天候の中で、南中生徒の力も存分に発揮されたようです。

今年の体育祭準備は、入学式・始業式直後の 4 月 10 日（木）の「団抽選」から始まりました。抽選により各クラスの色が学年ごとに決められ、同じ色になった異学年 2 クラスと『団』を結成しました。5 月 2 日（金）は格団に分かれて「結団式」が行われました。校庭実施の予定でしたが、雨天により体育館や武道場に場所を変更して行われました。この日を境にして、団長を中心に団全体の気持ちの少しずつ高まっていくように感じられました。そして中間テスト明けの 5 月 22 日（木）から 29 日（木）までは連続した団練習の時間が確保され、本格的に各種目や応援合戦の準備が進められました。結団式から本格的に練習が始まるしばらくの間、団長を中心に各種目の練習方法や応援合戦の内容を考えてくれていたのでしょう。22 日（木）からの練習は大変円滑に、時間を無駄にすることなく進められていたことが大変印象的でした。種目や応援合戦の練習と並行して、役員の動きも細部にわたり準備がなされていました。特に 28 日（水）の「予行」では、各種目の入退場やルール確認に加えて役員の動きが確認されました。誰がどの位置に立ち、どんな役割を担い、何を見るなど、細かなところまで打ち合わせがなされました。ここまでの準備がとても素晴らしいものでした。断片的にですが校長として生徒の動きを見てみると生徒の気持ちが高まっていく様子が伝わってきて、素晴らしい体育祭になるだろうことは十分感じられる準備期間でした。

そして向かえた体育祭当日。延期になり土日を挟んだため、最終的な準備は当日の朝になってしまいました。それでも役員を担っていた生徒の動き宜しく、ほぼ予定時刻に開会式を始めることができました。開会式では、応援席からの移動の時点で各団とも気合十分でした。そして開会式のメインである選手宣誓。6 人の団長が競い合うように決意のこもった宣誓を述べることでできていました。ご来賓としてご来校くださった教育委員さんから、開会式の約 20 分間の生徒の様子を見て、「素晴らしい態度でしたね。年々よくなっていきますね」とのお言葉をいただきました。

各種目では、出場する誰もが精一杯取り組む様子が伝わってきました。また、練習の成果も十分に発揮されていました。応援する生徒も、声をからして応援することができていました。役員もそれぞれの場所で責任を果たすことができていました。また、各団での打ち合わせがしっかりできていたのか、いろいろな種目で「作戦勝ちか？」と思わせる場面がありました。例えば「台風の日 R」でのカラーコーンの周り方。例えば、「玉入れ」での球の投げ方やチーム編成。また、「クラス対抗全員リレー」でのバトンゾーンの使い方など。応援合戦はこれまでの練習の成果がいかに発揮されました。審査をお願いした方が口をそろえて「どう判断するんだよ…」と嘆くほど、どの団も甲乙つけがたい仕上がりになっていました。

途中、教頭先生が格段の待機場所裏を回りました。遊んでいる生徒は一人もおらず、みんなが応援や次の準備に取り組んでいた旨、報告を受けました。

さて、中学校の体育祭は、どの種目も勝敗が付きます。勝敗は点数化され、総合点により順位が付きます。結果、団別総合はピンク団（1-1,2-1,3-3）が優勝、2 位が青団（1-3,2-5,3-1）、3 位が緑団（1-6,2-3,3-5）でした。ピンク団は、玉入れや団対抗 R、クラス全員 R など順調に点数を積み上げた結果のようです。応援合戦でもピンク団が最優秀賞、優秀賞が赤団（1-2,2-4,3-4）でした。（因みにピンク団には、頭の先から足の先までピンクに染まった担当教員が 3 名いました。彼らの気合も空回りしないで済んだようです。）

ところで、私は開会式のあいさつの中で生徒たちに、「これまでに蓄えてきたエネルギーを開放してほしい。見ている人たちにエネルギーが伝わるよう取り組んでほしい。私たちはそれをしっかり受け止めます。」ということを伝えました。そして閉会式の講評の中では、「君たちは十分に貯め込んだエネルギーを開放することができた。私たちはそれを確かに受け止めることができた。南中生には素晴らしい力が備わっていることを改めて認識した。この力を、これからの学校生活にどう活かしてくれるか、楽しみに見えています。」ということを伝えました。生徒たちはそれぞれの力を